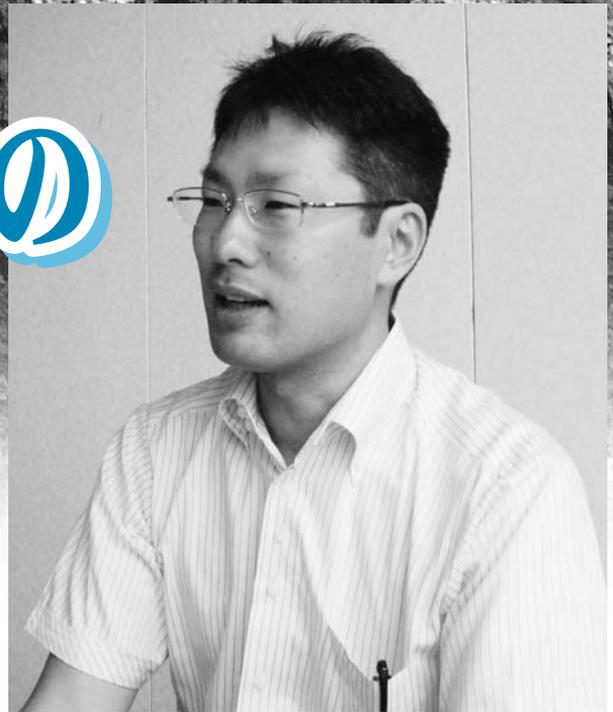


「自然首都・只見の 恵み推進事業」 がスタート



伊藤裕幸室長

農林企画室から皆さんへ

今年度、産業振興課内に設置された「農林企画室」の業務などについて、伊藤裕幸室長から、皆さんに内容をお知らせいたします。新たにスタートした農林企画室をよろしくお願ひします。



5月21日、「紙マルチ」と呼ばれる黒い紙のシートを水田に敷いて雑草の生育を抑える「紙マルチ栽培」による田植えが町内2カ所で行われました。

紙マルチ栽培は有機米の栽培方法として普及していますが、水温・地温が高まりにくいため南会津地方での実施は困難とされている方法です。今回、只見町で初めて試験的に導入しました。この事業の取り組みや、農林企画室の業務内容と「自然首都・只見の恵み推進事業」などについて伊藤室長から、皆さんへ説明いたします。

伊藤室長は矢吹町出身で、3月末まで会津大学に勤務、4月より農林企画室長として只見町役場に勤務されています。

「自然首都・只見の恵み推進事業」についてももう少し詳しく教えてください。

まずは農林企画室について教えてください。



▽最終目標は、『自然首都・只見』のイメージを最大限活用して只見町の農産物全体のブランド化を図り、農業所得の向上を目指すことです。しかしながら農産物全体のブランド化を図るには長い年月と多大な経費が必要となります。そのため一部の農産物のブランド化を図ることで農産物全体への波及効果を狙うこととし、まずは有機米栽培を推進することとしました。

今年度は只見町の気候にあった栽培方法を検証するため、紙マルチを含め3種類の抑草方法を採用しました。各水田には作業経過などを記載した案内板を設置しますので、ぜひ、見学してください。

有機米の栽培のほかに、どのようなことに取り組むのでしょうか。



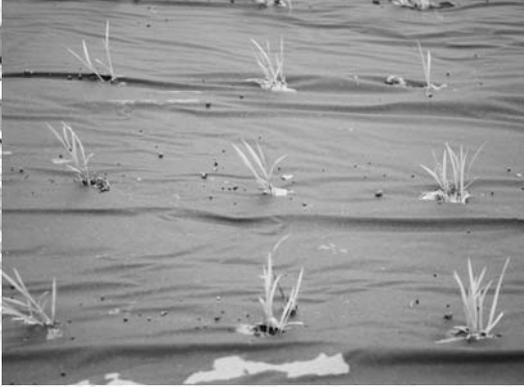
▽只見町が直面している、あるいは今後見込まれる農林業の政策課題に適時的確に対応するため、今年の4月、産業振興課内に農林企画室が設置されました。職員は私を含めて3名という小さな組織です。主な業務は『耕い手育成』、『農業所得向上』、『耕作放棄地対策』、『農商工連携』で、『自然首都・只見の恵み推進事業』は『農業所得向上』の取り組みの一つです。さらには、風評被害対策も重要です。やるべきことが盛りだくさんですが、産業振興課の農林班や交流推進班と連携しながら着実に実施いたします。

▽田植えが一段落しましたので、これからは統一ブランド名やマーク作成等、販売戦略を重点的に

自然首都・只見の恵み推進事業

紙マルチ栽培での田植え

紙マルチ栽培で植付けられた苗



紙マルチの補充作業



自然首都・只見の恵み推進事業 事業計画

平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
<ul style="list-style-type: none"> ○自然首都・只見の恵みプロジェクト推進協議会の設立 ○有機米栽培の促進 ○販売戦略の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○有機米栽培の促進 ○販売戦略の検討 ○販売促進イベントの実施 ○都市との交流事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○有機米栽培の促進 ○有機JAS認証取得 ○有機農産物販売 ○販売促進イベントの実施 ○都市との交流事業の実施

平成23年度 有機米栽培の取り組み状況

実施場所	抑草対策	栽培品種
叶津字居平	紙マルチ・油かす	コシヒカリ
大倉字田向	油かす・米ぬか	コシヒカリ
梁取字仏地	紙マルチ・米ぬか	コシヒカリ
布沢字小倉	米ぬか	コシヒカリ

有機米栽培などについての問い合わせは・・・
産業振興課 農林企画室
電話 82-5230 まで。

▽只見町は自然が豊かで、食べ物だけでなく水や空気も本当においしいです。また、皆さんがとても親切です。ただ一つ残念なことは、町外の人にとって只見町はダムや豪雪の印象が強すぎて農産物を思い浮かべにくいことです。只見町に勤務が決まってから何人かに「只見町は米がとれるの？」と質問されました。今後は只見の自然と結び付けた効果的な宣伝がますます重要になりますので、いいものを作るだけでなく広報にも力を入れていきます。これから、よろしく願います。

最後に只見町の印象をお聞かせください。

に検討します。また、将来は米以外にも野菜の有機栽培や雪下野菜の生産等に取り組むことを目標にしています。